

啄木のふるさと、『もりおかの短歌』

第1回年間グランプリ決定！



7月29日、年間グランプリ記者発表の様子

「啄木のふるさと」『もりおかの短歌』は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて、「短歌のまちもりおか」を推進することを目的に昨年より実施している事業です。年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。この度第1回目となる年間グランプリが決定いたしました。

年間の応募総数は554首、延べ308人の観光客や市民から投稿いただきました。

年間グランプリ（1首）

審査会講評
白寿の父の目線に合わせ
石割桜観る
車椅子押して
くまいますお

東京都江東区 藤村 清彦

「現代のキーワードともいえる『目線』を入れた作品。車椅子に座る父親の姿が見えるようで、白寿になった父親を思う優しさが感じられる。歌の構成もしっかりとおり、「盛岡」を象徴する石割桜が詠まれていることでしっかりと「盛岡」をイメージできる作品となっている。」

準グランプリ（2首）

「どこから来た」「もう帰るのか」
啄木の部屋に長居し
彼の声きく

「石をもて追はるるごとく」
リストラの我が身重ねて
草の根と人の技とが
南部しほりの紫の艶
雪あかりの街

岩手県盛岡市 梅津 利之

京都府京都市 小坂純一郎

記念館観る

茨城県かすみがうら市 石井 明

「不來方の城に登りて空見れば
彼の人も見し
雲の流れかな

奨励賞（3首）

「このたびは、過分のご評価を戴ぎ、光栄に存しております。今回の受賞作はそのまま父の願望もそうだろうと詠んだものです。次なる願いは在宅のまま100歳を迎え、外出は不能でも「お八幡さん」のドンコドンコというお祭り太鼓を聴くことでしたが、その父も7月に他界いたしました。介護のため盛岡に滞在しておりました私も、ふるさと盛岡の久しづりの風物と人情に癒されることしかしです」

東京都西東京市 石川 寛子

受賞作品全体に対する審査会講評

「今回の受賞作品6首のうち3首が啄木をイメージさせる作品となり、あらためて短歌といえば啄木、そして啄木の持つ力強さが感じられた。切なさや寂しさといった作者の状況が、啄木と重なりあってよく表現されている。全体的に「盛岡」をイメージできる短歌として、力強さや哀愁、何気ない日常の風景、作者の気持ちなどが素直に表現され、いずれもレベルの高い作品となっている。」



『啄木のふるさと、『もりおかの短歌』

年間応募総数855首 第2回 年間最優秀賞決定！

「啄木のふるさと、『もりおかの短歌』」は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に昨年より実施している事業です。年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。この度第2回目となる年間最優秀賞が決定いたしました。年間の応募総数は855首、延べ504人の観光客や市民から投稿いただきました。

年間最優秀賞（1首）

言の葉のやさしきひびき
停車場の啄木思う
盛岡の旅

東京都新宿区 松下 洋子

審査員講評

○「ふるさとの訛りなつかし」啄木の歌をふまえた思いの深い一首。
○盛岡の旅に聞いた盛岡弁のやさしいひびきに、啄木が上野停車場に行き故郷の訛に親しだという短歌を思い出していく歌。啄木の歌を愛好していることが分かり、感じたことを優しく端的に表現しているのがよいと思います。「ふるさとの訛なつかし／停車場の人ごみの中に／そを聴きにゆく」と啄木が詠んだ「停車場」は上野駅のことでした。

年間優秀賞（2首）

やわらかき稻穂の風が
啄木の
母校の風を吹きわたりゆく

茨城県久慈郡 高梨 とし

受賞者からのコメント

「昨年八月、旅の記念に一首を投稿しましたところ年間賞に選んでいただき、盛岡が一層身近な地に感じられるようになりました。記念館や古い木造校舎からは、啄木の息遣いが聞こえてくるようでした。そして、豊かな山河をつむぐ光も啄木と共に喜びを味わうことができました。機会があれば、また、お訪ねしたいと思っております。『もりおかの短歌』の今後のご発展を心よりお祈りいたします。」

姫神は
入り日に紅葉照り映えて
雪降る前の華やぎを見す

宮城県仙台市 沼沢 修

受賞者からのコメント

「初めての盛岡でしたが、人々の優しい話し方が印象的でした。そして中学生の頃習った啄木の歌を思い出しました。ホテルのロビーにあつた応募用紙に誘われ作ってみました。今まで短歌を作ったことはほんとなく、ましてや投稿したのは初めての経験でした。それが、このような賞に選ばれ、ただただ驚いておりました。」

奨励賞（1首）

盛岡に住みたる孫は
啄木を二十首そらんじ
二年生になる

宮城県富谷町 根本 由紀子

受賞者からのコメント

「奨励賞ありがとうございます。盛岡がさらに親しい街となりました。ありがとうございました。記念館や古い木造校舎からは、啄木の息遣いが聞こえてくるようになりました。そして、豊かな山河をつむぐ光も啄木と共に喜びを味わうことになりました。機会があれば、また、お訪ねしたいと思っております。『もりおかの短歌』の今後のご発展を心よりお祈りいたします。」



啄木のふるさと、「もりおかの短歌」 うた

年間応募総数1,048首

第3回 年間最優秀賞決定！

「啄木のふるさと」、「もりおかの短歌」は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。この度第3回目となる年間最優秀賞が決定いたしました。年間の応募総数は1,048首、延べ288人の観光客や市民から投稿いたしました。

年間最優秀賞（1首）

沿岸に幸よ來たれど

願ひこめ
峰の雪形驚飛び立ちぬ

岩手県滝沢村 小田佐枝子

受賞者「学校の授業で習つただけの私がこのようないい手で散る様子がとても光栄に思います。東日本大震災では、私の友人も津波で家を失いました。被災地の一日も早い復興と、被災された方々の幸を願つて作りました。」

優秀賞（2首）

烈しさもまた美しさ
夏の夜に

五色の帯の散れる輪踊り

審査員講評
●岩手山の雪どけの季節、消えゆく鶯のかたちに災害からの復興の希望を託している。5月上旬岩手山に鶯の雪形が現れると、農家のひとたちは田畠の種まきを始めます。震災から2ヶ月が経つた頃、被災地の人たちのことを思いながら今年も、いつものように種まきをした内陸の人々——遠くから「沿岸に幸よ來たれ」と、ただただ祈るばかりのその気持ちが鶯に託され、詠まれています。

●東日本大震災が、岩手、宮城、福島をはじめ東日本の沿岸部に大災害をもたらした。その沿岸に、早く復興の幸あれという願いを込めて、岩手山の鶯形が飛び立つように見えていたという、自宣を得た歌。

●東日本大震災に見舞われた3月、岩手山は残雪に覆っていた。その雪が徐々に融け、やがて嶺に雪形の鶯が現れ、それも消えて季節は夏へと移っていく。雪形の鶯が消えたことに気付いた作者は、「鶯は岩手山を飛び立つ」と、受け留めた。作者自身の願望を鶯に委ねて詠われたその感受が素晴らしい。

杜の街 石も流れも肅々と 影を濃くして冬を迎える

神奈川県横浜市 森木 康一

受賞者「メント
「盛岡市は以前から私にとって好きな町の一つですが、昨年の12月に訪れた時はとても風の冷たい日でした。啄木賢治青春館や、盛岡駅構内の短歌投稿ボックスを見つけ、その日の宿の松川温泉にて慣れない短歌作りに挑戦してみました。年間の優秀賞を頂けるとは思つてもいなかつたため、望外の喜びです。3月に被災された方が「一日も早く心安らかな日々を送れますよう心よりお祈り申し上げます。」

審査員講評

●冬に向かう北国の感じを緊張感をもつて捉えている。

●「盛岡」は「杜陵」とも言われるよう杜の街です。そして静かに北上川が流れる様子も表現され、川の流れのように心静かに生きる作者の姿が窺われます。

●盛岡の町を貫流する中津川。石も流れも静かです。ひつりしており、しかも影がはつきり見えている様子が、北国盛岡の初冬を象徴している。

●普段の生活では気にも留めないが、見回せば盛岡は豊かな森に恵まれている。晚秋の北上川、

今日も聞こゆるさんさの太鼓 十六羅漢の裏手より

岩手県盛岡市 鈴木 文子

受賞者「メント
「夏のある日、夕暮れ時の街の情景を詠みましたが、東日本大震災以降、何気ない日常が今こそ愛おしく思われてなりません。被災された方が、「一日も早く元の日常生活を取り戻されるよう祈念しております。」

奨励賞（2首）

東京都練馬区 久慈 博子

中津川
初夏の風吹く川べりを
ともに歩きし人いまいづこ

受賞者「メント

「思いがけない年間賞のお知らせを頂いていたただ驚いています。盛岡は私が青春時代の数

年間を過ごした街で、今は、たった一人、盛岡に残っている母の介護を兼ねて数か月に一度訪れております。その際に必ず盛岡の街を歩いており、そのときには、感じたものを短歌といたしました。自分の短歌の師匠は、石川啄木と勝手に決めております。啄木の歌は、わかり易い言葉ですんなりと心に入りますが、彼の境遇や生きざまを知れば知るほどその歌の重みを感じるようになりました。さりげない歌の重みなのに、一つのドラマになつて、詠む人の想像力を掻き立てる、私もそのような歌を詠えたらと思います。」

中津川、いずれの流れもトーンを落として厳かである。「雨々と影を濃くして」の表現は、そんな雰囲気をうまく言い得ています。川底の石まであきらかに見える街川に鮭の帰る日も近いのだろう。

平成23年度／夏の部～平成24年度／春の部

“啄木のふるさと”『もりおかの短歌』 うた

第4回 年間最優秀賞決定！

年間投稿数 1,131首 平成24年7月選

年間最優秀賞

もりおかに集う／みちのく六魂祭／板の花降りパレード進む

東京都江東区 藤村 清彦

【受賞者コメント】

このたびは、はからずも再びの年間グランプリ受賞のお知らせを頂き、有難うございました。

初受賞を喜んでくれた父も没した盛岡は、疎遠になると思いきや風土と人情にはだされて、前にもまして帰省の機会を逃せなくなりました。再受賞とは光栄の至り、良い幕前報告になりました。

優秀賞(2首)

「盛岡さよくおでんした」と迎えらる／魂に沁みる／さんさの響

東京都江戸川区 佐藤 春夫

【受賞者コメント】

此度は過分なる賞を頂けるとの事、誠に有り難うございます。

JRのウイークエンドパスを利用し、盛岡駅に着くと歓迎の大文字が描れながら迎えてくれ、六魂祭を楽しんで、翌日帰った時に投稿させて頂きました。この様な賞を頂けることを非常に嬉しく思っております。

また岩手観光に行きたいと思っております。

末筆乍商工会議所の皆様のご健康とそのご発展、盛岡のひいては岩手県の一日も早い復興を心から祈念致しております。
「花は咲く。いや必ず咲かせましょう」

ふるさとや／えくぼの友を偲びつつ／杜のみやこの舟っこ流し

東京都新宿区 佐藤 慶子

【受賞者コメント】

故郷は盆の季、遠い日の色あせぬ憶い出を拙い言葉に託して心なぐさめています。

啄木に愛され、啄木を愛す城下の町もりおかに想いを馳せつつ受賞有難くお礼を申します。

奨励賞(2首)

水無月の／姫神山の頂で／夫に撮られてよき顔つくる

福島県伊達市 安斎 和子

【受賞者コメント】

此の度は、もりおかの短歌において奨励賞を頂きましたこと本当に嬉しく思います。一生の記念になります。あまりにもおもいもかけぬ受賞に思わず鳥はだが立って信じられませんでした。

夫婦とも大好きな山登り…石川啄木のふるさと…また、是非おとづれたいと存じます。本当にありがとうございました。

春なれば／雲の襟巻き着こなして／花形役者の岩手山塊

埼玉県深谷市 栗林 孝安

【受賞者コメント】

サービスエリアから見た春の岩手山の風景です。冬はそうはいきませんが、春になると岩手山と雲は仲良しです。おしゃれに雲を着こなして岩手山も春の到来を喜んでいるようでした。

奨励賞をいただき、ありがとうございます。

啄木や賢治の理想を大切にして町作りを進めてください。材木町やよ市、不來方城などまた盛岡を訪ねます。



啄木のふるさと「もりおかの短歌」^{うた} 第5回 年間最優秀賞決定！

「啄木のふるさと」「もりおかの短歌」は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成20年より実施している事業です。4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に応募のあつた五三三首の中から第五回となる年間最優秀賞が決定いたしました。

年間最優秀賞（一首）

やはらかな雅楽の調べ

聞く如く盛岡弁を

耳に留めぬ

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

【受賞者からのコメント】

「この度は拙歌に思ひがけず大きな賞を頂き、感激未だ覚めやらぬといったところです。天にも上の気持ちとはこのようなことを言うのです。天にも上の気

味で細々と続けて来た短歌ですが、これを励みと

しさらに精進して参りたいと存じます。」

【審査員講評】

●雅楽の調べで聞く如くの比喩がすぐれている。盛岡弁のやわらかさを雅楽の調べで丹念に打ってゆく、その点がしっかりと描っていると賛嘆している。

●作者は南部鉄瓶の工房を見学されたのだろうか。下の句「指の動き」は直に見た人ならではの臨場感がある。「緻密なる」から拙宅でも愛用している算玉型霞紋の鉄瓶がひらめいた。一

【受賞者からのコメント】

「この度は優秀賞を戴き誠に有難うございます。昨年の秋、息子と盛岡を訪れた際に伝統ある南部鉄瓶の製造過程を見学して感動し詠んでみようと思いついて投稿いたしました。思いがけずに賞を戴く事となり驚いております。今度は桜の季節の岩手山を見たいと思っております。」

【審査員講評】

●「点の確かさ」と表現した作者は「目の確かさ」をお持ちである。南部鉄瓶の整然とした「あられ」の紋様を繊細な指の動きで丹念に打ってゆく、その点がしっかりと描っていると賛嘆している。

●作者は南部鉄瓶の工房を見学されたのだろうか。下の句「指の動き」は直に見た人ならではの臨場感がある。「緻密なる」から拙宅でも愛用している算玉型霞紋の鉄瓶がひらめいた。一

緻密なる南部鉄瓶もんようの
指の動きかさ

茨城県高萩市 大高 正男

日溜りの如き貴方に付いて来て
盛岡の冬
五十回越す

盛岡市 鈴木 操

【受賞者からのコメント】

「誠実で且つ、私の欠点や失敗をも包み込んでくれる優しい背見詰めながら、長年歩んで参りました。感謝の思いを素直に表現しただけですので、思い掛けず「賞」を頂くことが出来、ただただ驚いております。もし今後、心に雨が降る日、風が吹く日があつても、この温かい背を信じ一生付いて行きたいと、思いを新たにしております。」

【審査員講評】

●日溜りの如くにはっとしたかいで夫に従つてきて、盛岡の冬を五十年越したという。言外に金婚式を迎えた感慨がしみじみと窺ついてよい歌。

●単純に考えると五十年前の冬に、ご主人のもとに嫁いでもらった作者。「日溜りの如き貴方」と言い切ることの出来る幸せ感が羨ましい。ご夫婦仲の良さが凝縮されている上の句の表現である。

年間最優秀賞（二首）

年間最優秀賞（二首）

奨励賞（二首）

啄木の
短歌に惹かれし少女の日
八十路近きも若き日を恋ふ

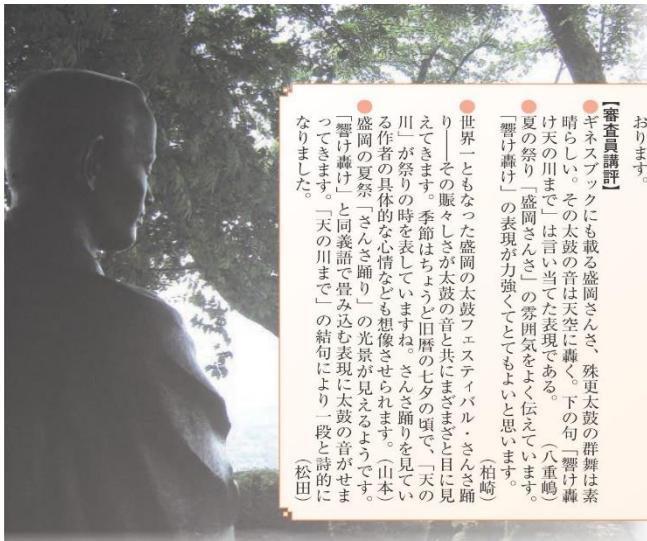
群馬県富岡市 横田 久子

【受賞者からのコメント】
「毎年五月の連休には息子が弘前桜と津軽三味線を聞きに連れて行ってくれますが、今年は盛岡で「啄木の短歌」と出会い、遊び心で一首投稿して帰りました。もう忘れていた矢先でした。いたいた記念品はわたしの宝物です。『書きが短歌詠む幸せ感じじ、盛岡の旅 思ひ出しそり』『いただきし古代型染額に入れ 藍の模様に 元氣もらひぬ』」

寝転びて流れる雲に
想ひ寄せ詩人の如く
言の葉紡ぐ

盛岡市 河野 康夫

【受賞者からのコメント】
「不來方の城跡に寝転び、啄木が歌を詠んでいる、その様子を私も歌にしてみました。陸前高田市に生まれ育ち、盛岡市に住むようになつて、三十六年になります。第二のふる里とも言え盛岡市において、啄木に触れ賞を頂き、そして今、盛岡市民であることを実感しております。七五調の短詩文芸を通じ、素晴らしい日本語をこれからも学んでいきたいと思います。」



平成25年度／夏の部～平成26年度／春の部

第六回 年間最優秀賞決定！

「啄木のふるさと『もりおかの短歌』」

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまちもりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に応募のあった六三七首の中から第六回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

年間最優秀賞（二首）

群舞する

盛岡さんさ夏の夜

響け轟け天の川まで

盛岡市

昆野 寛顕

【受賞者からのコメント】

この度の年賞では、途方もないご褒美になりましたことに、心からお礼と感謝を申し上げます。私の「盛岡さんさ」が、天の川までどどいたのかと思うと、とても嬉しく、そして有り難く感じています。これからも「啄木のふるさと盛岡」探しを短歌い続けていきたいと思っています。

【審査員講評】
ギネスブックにも載る盛岡さんさ、殊更太鼓の群舞は素晴らしい。その轟々しさが太鼓の音と共にまさまで目に見えてきます。季節はちょうど旧暦の七夕の頃で、「天の川」が祭りの時を表していますね。さんざ踊りを見ている作者の具体的な心情なども想像させられます。(松崎)

●世界一ともなた盛岡の太鼓フェスティバル・さんさ踊り——その轟々しさが太鼓の音と共にまさまで目に見えます。季節はちょうど旧暦の七夕の頃で、「天の川」が祭りの時を表していますね。さんざ踊りを見ている作者の具体的な心情なども想像させられます。(松崎)

●盛岡の夏祭「さんさ踊り」の光景が見えるようです。「響け轟け」と同義語で脇み込む表現に太鼓の音がせまっています。「天の川まで」の結句により一段と詩的になりました。(松崎)

年間優秀賞（二首）

まつしろいブラウスみたいな
風の吹く
もりおかはもう夏の気分だ

神奈川県鎌倉市 大西 久美子

【受賞者からのコメント】

昨年の夏、盛岡を訪れた時、この町を吹く風は、白いシンブルなブラウスのようによやかでした。学生時代をこの地で学んだ祖母、母、また定年後神奈川から岩手に移り住んだ父も亡くなり、現実は寂しくなるが、盛岡を吹く風はいつも懐かしさと元気をくれるのです。

【審査員講評】
「まつしろいブラウスみたいな」と比喻したところがとても爽やか。そして「もりおかはもう夏の気分だ」は作者の気持ちを直に表している。学生時代をこの地で学んだ祖母、母、また定年後神奈川から岩手に移り住んだ父も亡くなり、現実は寂しくなるが、盛岡を吹く風はいつも懐かしさと元気をくれるのです。

(柏崎)

●初夏の風を「まつしろいブラウスみたいな」と比喻したところがとても爽やか。そして「もりおかはもう夏の気分だ」は作者の気持ちを直に表している。学生時代をこの地で学んだ祖母、母、また定年後神奈川から岩手に移り住んだ父も亡くなり、現実は寂しくなるが、盛岡を吹く風はいつも懐かしさと元気をくれるのです。

(八重鷗)

●名のごとく
石割桜岩を割く
震災超えて克てとごとくに

岡山県倉敷市 佐藤 豊行

【受賞者からのコメント】

平成二十一年秋、盛岡の旅で石川啄木の「三行書き」を初めて知り、この手法に興味を持ちました。旅の思い出に一軒の駅で心奪いましたが、まさかこのような賞を頂けるとは思いませんでした。不朽のお土産となりました。有名な啄木にちなんだ賞を誇りに今後も短文芸に精進します。ありがとうございました。(東日本大震災復旧を願っているように、と、二つの事実を結びつけるところがよい。)

(八重鷗)

夫が待つ
片栗の 粉を踏むよな
盛岡の道

東京都中野区 今井 貨預

【受賞者からのコメント】

この冬、一身赴任の夫を初めて訪ねたときの、うれしい気持ち。盛岡の穏やかさによつとホッとした。そんな気持ちを、帰りの駅で見かけた一枚の「バウダースト」に出しました。嚴冬のトレイのストーブやバウダーストに驚き、岩手山の美しさに息をのみ、朝市のおばちゃんの優しさやパン屋さんの楽しさにふれ：来る度に盛岡が好きになります。

(八重鷗)

桜咲く十六羅漢公園に
花見のごとし
羅漢の円座

盛岡市 小笠原 敏夫

【受賞者からのコメント】

私はかつて十六羅漢公園近くに居住していました。離れた所に居を移して二十年。いま、春夏秋冬、羅漢坐像のお姿の記憶が色濃くあります。それは羅漢の印象が建立の由来を知っていたいとの思いを秘めた一首です。

(柏崎)

●十六羅漢公園の桜もよい。羅漢が公園を開み坐っておられる静かなオアシス。羅漢が円座してまるで花見をしているようだ、といったところがよい。(八重鷗)

●羅漢さんの様子をほほえましくらえています。「円座」の言葉が効果的に据えられています。街川が流れ、空気の澄んだ、爽やかで清潔な盛岡の街の印象に繋がる表現に惹かれます。

(松田)

年間最優秀賞（一首）

啄木の歌に惹かれし少年が
老いて尋ぬる
もりおかの町

長崎県大村市 鈴木 言義

年間優秀賞（二首）

みちのくに

鮭さけのぼりくる街ありて

擬宝珠ぎぼしにもたれ そを見てゐたり

東京都江東区 藤村 清彦

もう祖母の生家なけれどー

冬涸かれぬ大慈清水だいじしみずに

青菜洗せいさいあらへる

神奈川県横浜市 伊藤 修文

年間奨励賞（二首）

あおぞら はさま た
青空を切れる鉢で裁つごとく
岩手の山は

凛りんと聳そびえる

盛岡市 中島 久光

冷麺の器の中の

果物が梨にかわりて

盛岡の秋

盛岡市 小池沢 和志

平成二十七年七月選
第七回 もりおかの短歌

年間総投稿数 一〇五九首

平成27年度／夏の部～平成28度／春の部

第八回 年間最優秀賞決定！

啄木のふるさと『もりおかの短歌』^{うた}

年間最優秀賞（二首）

**いつの日も凜と聳ゆる岩手山
めげずに生きよと鼓舞する如く**

青森県青森市 鈴木 操

受賞者からのコメント

このたびは思いがけず賞を頂くことが出来、大変光栄に思うとともに、今までの人生において一番苦しかった頃の事を、素直に表現しての受賞ですので、殊の外嬉しい思いをしております。選を担当された先生方やスタッフの皆々様にも深くお礼申し上げます。

審査員講評

盛岡に帰る度にいつも凛と聳えている岩手山、めげずに生きよと励ましをいただいているという。まさに「ふるさとの山はありがたきかな」を身をつて実感している歌です。（八重鶴）

● 岩手山はいつ見ても人を寄せ付けない威厳を保つてゐるかに見えるが、八幡平の裏に回る父のよう…。岩手山はいつ見ても人を寄せ付けない威厳を保つてゐるかに見えるが、八幡平の裏に回る父のよう…。（松田）

● 啄木の「ふるさとの山に向ひて／言ふことなしふるさとの山はありがたきかな」の空をまずいるものがある。岩手山から人は様々の影響を受けている。「めげずに生きよと鼓舞する如く」が効いている。（山本豊）

年間優秀賞（三首）

**風鈴が迎えてくれれ
啄木の青春刻む**

盛岡市 河野 康夫

受賞者からのコメント

この度は、素晴らしい賞を頂きありがとうございます。この音色で、心地よい南部鉄器による風鈴の音が響く、盛岡の街には、啄木新婚の家、啄木郷の丘など、啄木の足跡が数多く残っています。訪れた人達が文学、芸術の街としての盛岡を感じて頂ければ幸いです。

審査員講評

暑い夏の日、盛岡駅に降り立つと、たくさんの風鈴の音が迎えてくれた。ああ、この町は、啄木の青春を謳歌した街である。

● 盛岡に降り立ち、まず迎えてくれたのは、風鈴の音だった。作者にそんな過去の記憶があるのでしょうか。公園や歌碑など、啄木の青春時代を劈貼（はりく）つせる盛岡の街です。（山本玲子）

● 「これ」と過去形で証されています。盛岡に降り立つと、まず迎えてくれたのは、風鈴の音だった。作者にそんな過去の記憶があるのでしょうか。公園や歌碑など、啄木の青春時代を劈貼（はりく）つせる盛岡の街です。（松田）

● 啄木の盛岡のホームには、たくさんの風鈴が飾られる。その音色は、涼しさよりも、盛岡に来た、という感覚を強く抱かせる。盛岡に来た、という感覚を強く抱かせる。風鈴と啄木と盛岡を結びつけることにより、歌が郷土色豊かなものとなつてゐる。（山本豊）

年間奨励賞（三首）

**強力の太鼓太鼓
鳴り響き**

盛岡市 三澤 信裕

受賞者からのコメント

思いがけない受賞、ありがとうございました。盛岡市民の心意気の良さを感じます。私も今後の余生、持病に負けず未熟気まぐれながら短歌を創り続けていたいと思っています。

審査員講評

若い力強い太鼓に鳴り響く太鼓、秋の青空も高く、堂々と行く盛岡の山車、という歌子供たちの小太鼓や笛、鉦

● 「青空高し」と言つて、歌に爽やかさが加わった。（山本豊）

**啄木がこころ吸われし青空を
探してのぼる**

滝沢市 澤内 イツ

受賞者からのコメント

思ひがけない入賞でした。心より感謝申上げます。啄木の「空に吸はれし十五の心」とは啄木がのちに上きたきの心であった。今話題のボケモノNGのよう探し当てるのも悪くなかったらかな尾根が広がる。（山本玲子）

● 「不來方のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心」この歌を思いながら吸はれし十五の心この歌を見えてきました。心を吸われそうな青空を探し当てたことは、触れず成功しました。（松田）

● 啄木の「ふるさとの山に向ひて／言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな」の空をまずいるものがある。岩手山から人は様々の影響を受けている。「めげずに生きよと鼓舞する如く」が効いている。（山本豊）

審査員講評

鳥の度に幾星霜を経た「石割桜」の前に咲みます。厳しい風雪に耐へ抜いて来た太鼓、それでいて柔らかな幹に広がる枝、満開の花。柔らかさをもつて事を成す、「石割桜の心」が、ふと、私に語りかけて来ましたのです。

● 剥き苦労難離して育つた石割桜、毎年見事な花を咲かせているのは、本当に涙ぐましいばかりです。（八重鶴）

● 「青空高し」と言つて、歌に爽やかさが加わった。（山本豊）

**石割桜
吾に語りし**

神奈川県横浜市 牛島 芳一

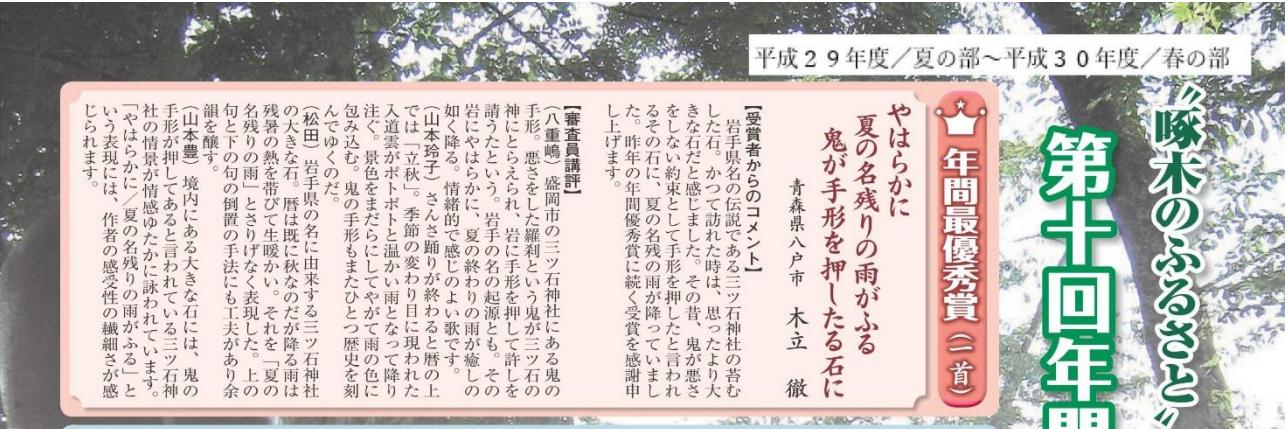
受賞者からのコメント

前年に竹木です。厳しい風雪に耐へ抜いて来た太鼓、それでいて柔らかな幹に広がる枝、満開の花。柔らかさをもつて事を成す、「石割桜の心」が、ふと、私に語りかけて来ましたのです。

● 「事を成す力は日々の労も、人生経験と深い思慮から得られたことの言葉なり。めつき弱くなり花数の乏しくなった石割桜です。（松田）

● 自然は、それに向かう人に色々なことを感じさせてくれる。石割桜を見て、「事を成す力は日々の労」ととらえた作者には、ものごとを深く見つめる力が常日頃から備わっているからこそできる表現である。（山本豊）

啄木のふるさと「もりおかの短歌」事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に応募のあった八三八首の中から第八回となる年間優秀作品が決定いたしました。



啄木のふるさと『もりおかの短歌』^{うた}

第十四回年間最優秀賞決定!

年間最優秀賞(二首)

年間優秀賞(三首)

年間奨励賞(三首)

与の字橋 鮎は来たかと見下ろせば
隣にひとり

またもうひとり

やはらかに
夏の名残りの雨がふる
鬼が手形を押したる石に

青森県八戸市 木立 繁

盛岡市 小地沢 和志

雪吊りの
繩にいのちを託しきり
石割桜静かに眠る

青森県青森市 鈴木 操

繩に命を託して石割桜が静かに眠ると感じ
たところがよいですね。

「山本玲子」季節は巡る。北国での厳しい冬

がこの当たり前の自然の摺理さえ惑わせて

しまいそうだ。しかし、そこにはただひび

きで強くしてくれるだろう。しかし、そこには強くしてくれるだろう。

それが石割桜を、盛岡の人々の心を謙虚にそ

平成29年度/夏の部~平成30年度/春の部

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民に

よる啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。

四つの期間(夏の部・秋の部・冬の部・春の部)に分けて募集し、一年間に応募のあつた

六七八首(一般部門)の中から第十回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

また、ジュニア部門において、秋の部では「盛岡市立月が丘小学校」「盛岡市立飯岡中學

校」より多くのご投稿をいただきました。誌面を通じてお礼申し上げます。

【受賞者からのコメント】
岩手県名の伝説ある三ツ石神社の苦木

した右だと感じました。その昔、鬼が悪さをしない約束として手形を押したと言わるその石に夏の名残の雨が降っていました。昨年の牛間優秀賞に続く受賞を感謝申し上げます。

【審査員講評】
(八重鳴) 盛岡市の三ツ石神社にある鬼の手形。思をした羅刹という鬼が三ツ石の神にどうえられ、岩の手形を押して許しを請うたとい。岩の手形を押す源とも。その岩にやはり、夏の終わりの雨が餘る時、上

如く降る。情緒的で感じのよい歌でした。山本玲子さん、歌の變わり目に現われた入道雲がボトボトと温かい雨となつて降り注ぐ。景色をまだにしてやがて雨の色に包み込む。鬼の手形もまたひとつ歴史を刻んでゆくのだ。

(松田) 岩手県の名に由来する三ツ石神社の大木は既に死んでしまったと思残暑の熱を帝びて生暖かい。それを「夏の名残りの雨」とさりげなく表現した。上の句と下の句の倒置の手法にも工夫があり余韻を醸す。

【山本豊】境内にある大きな石には、鬼の手形が押してあると言われている三ツ石神

社の情景が情感めたかに詠われています。「やはらかに、夏の名残りの雨がふる」という表現には、作者の感受性の繊細さを感じられます。

【受賞者からのコメント】
(八重鳴) 毎年秋深むころ、鮎が太平洋から三百キロも北上川を遡上し、盛岡市の中心を流れれる中津川で產卵、命果てます。写しの字橋は最も見よいところで、一人また一

枚(手)を発想した橋で、「鮎の運河」といいます。鮎は、街なかということもあり人の往来が絶えない。鮎の運河の季節になると川底まで透けて見える流れに目を移しはじめます。「隣にひとりまたもうひとり」とはその光景たのもと感じています。

【山本豊】盛岡の風物詩ともなつていましまして、「鮎の運河」がそこまであります。中津川の鮎の運河の様子が、そのまま手橋(手の字橋)として現れて、その手橋をイメージしていよいよ、動きが加わることによつて、歌を生き生きとしたものにしています。

【受賞者からのコメント】
(八重鳴) 盛岡地方裁判所構内の石割桜は、結婚を機に五十年お世話になつた盛岡シーンを見る。隣にひとりまたもうひとりで、街なかということもあり人の往来が絶えない。鮎の運河の季節になると川底まで透けて見える流れに目を移しはじめます。「隣にひとりまたもうひとり」はその光景を言い得て妙。

【山本豊】盛岡の風物詩ともなつていましまして、「鮎の運河」がそこまであります。中津川の鮎の運河の様子が、そのまま手橋(手の字橋)として現れて、その手橋をイメージしていよいよ、動きが加わることによつて、歌を生き生きとしたものにしています。

【受賞者からのコメント】
(八重鳴) 盛岡の美しさに感動した。天然記念物として石割桜の美しさに感動した。晩秋後は造園業の方々で遡えて見えます。冬になると足を移しはじめます。隣にひとりまたもうひとり

【山本玲子】季節の変わり目に現われた岩手の手形を押す源とも。その岩にやはり、夏の終わりの雨が餘る時、上如く降る。情緒的で感じのよい歌でした。山本玲子さん、歌の變わり目に現われた入道雲がボトボトと温かい雨となつて降り注ぐ。景色をまだにしてやがて雨の色に包み込む。鬼の手形もまたひとつ歴史を刻んでゆくのだ。

(松田) 岩手県の名に由来する三ツ石神社の大木は既に死んでしまったと思残暑の熱を帝びて生暖かい。それを「夏の名残りの雨」とさりげなく表現した。上の句と下の句の倒置の手法にも工夫があり余韻を醸す。

【山本豊】境内にある大きな石には、鬼の手形が押してあると言われている三ツ石神

社の情景が情感めたかに詠われています。「やはらかに、夏の名残りの雨がふる」という表現には、作者の感受性の繊細さを感じられます。

【審査員講評】
(八重鳴) 不來方城址の岩手公園、若い日妻と連れ立って散策したのでしよう。あるいはアートコースだったのではないでしょ

うか。あのころ、緑の日差しが変わらぬ事であります。しかし、その花よりもなお香り立つ、短歌だからいえることです。

【審査員講評】
(八重鳴) 米内浄水場の枝垂桜は、薄くれるよな香り立つ。という事によって、直接相手に言つたら一笑に付されるかも知れないが、

一緒に米内内の枝垂桜の下を歩いてみたな

るような歌だ。枝垂れ咲く／花よりも香り立つ、短歌だからいえることです。